

4.1.6 精査の実施

精査方針に基づいて精査を実施し、注目すべき生物の生息・生育状況やネットワークを把握した上で、事業による生態系への影響を予測する。

【解説】

1. 精査の実施

精査の実施に伴い、予期しない生物や重要な環境の発見等が考えられる。このため、調査項目の追加などを必要に応じて行いつつ、精査を実施する。

2. 精査結果の分析と取りまとめ

(1) ネットワークの把握

注目すべき生物の生息・生育状況や環境基盤などの情報を基にネットワークを把握する。また、現在は分断、消失しているが、事業により回復が可能なネットワークも把握する。

(2) 事業による生態系への影響の予測

把握した注目すべき生物の生息・生育状況やネットワークに事業の整備計画を重ね合わせ、影響の内容と程度を予測する。また、影響の要因を分析する。

(3) 取りまとめ

(1)や(2)の結果は、事業地域全体をとらえた地域スケール（1：10,000～25,000程度）の図面に整理する。また、生態系への影響が大きい重要な移動経路、産卵場、越冬場等については詳細な図面に整理するなど、わかりやすく取りまとめる。

3. 影響の予測に当たっての留意点

(1) 様々な視点からの予測

事業による影響には様々なものがあり、その一部でも見落とすと予期しない問題が生じるおそれがある。このため、予測は様々な視点から行う必要がある。

例えば、水路を用排兼用から用排分離のものにするなどの水利システムの変更により、水田と水路との落差が生じるほかに、降雨時の流速の急激な増加や、非かんがい期における水路の水枯れが起こる可能性がある。このとき、流速の急激な増加や水路の水枯れを予測せずに、適切な環境配慮対策を検討しなければ、仮に水田と水路の落差を解消しても、想定した効果が得られないことになる。

(2) 影響の要因の具体化

影響の要因は、環境配慮対策の検討の際に着目すべきポイントとなるため、具体的に整理することが重要である。

例えば、土水路からコンクリート水路に変更することにより、フナ類の生息環境が縮小、消失する場合においては以下のように整理する。

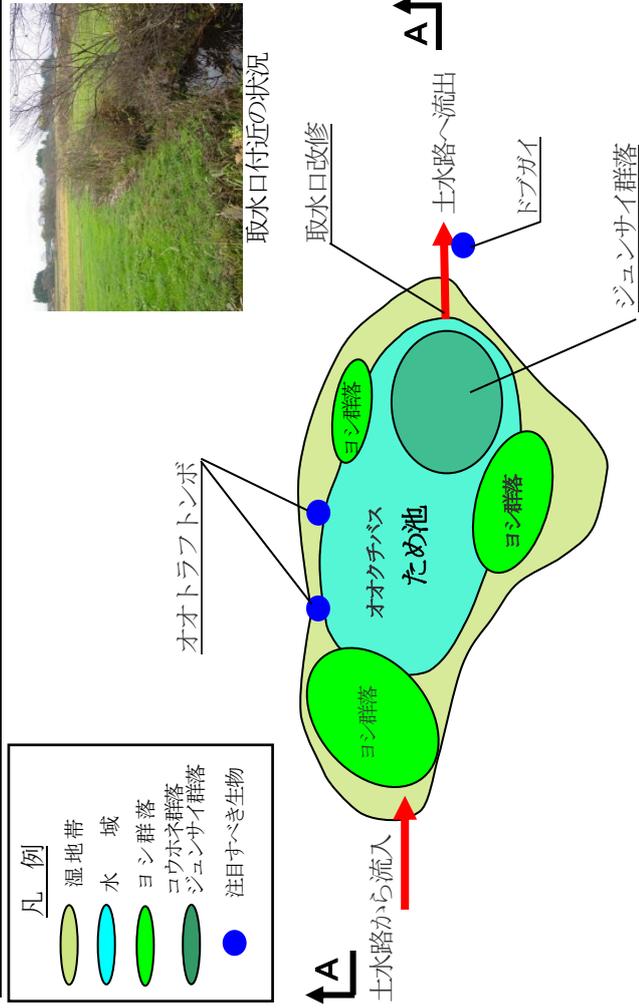
- ・「水路の直線化や水路底の平坦化」による流速の緩やかな空間の縮小
- ・「水草やエコトーンの消失」による産卵場の消失
- ・「底質の変化」による餌生物の減少
- ・「水路内の倒木の除去」による越冬場の消失
- ・「法面の木の伐採」による隠れ場の消失

[事業による影響予測結果 (地点①)]

確認された注目すべき生物	調査結果	事業実施により影響を受けるネットワーク
<p>両生類：ニホンアカガエル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 3月に水田の水たまりで卵塊(20個)を、11月に樹林地で成体を確認し、樹林地から水田への移動を把握。 ● 現況水路は土水路で、護岸勾配は1:1.5。 ● 2月～4月の水田の水たまりは、樹林地からの浸み出しによるもので、樹林地沿いの30mの範囲に集中。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水路工に伴う垂直なコンクリート壁により成体が這い上がれなくなり、水田と樹林地間の移動経路が分断。 ● 水路工に伴う排水強化により産卵場の水たまりが消失。 ● 農道工に伴うロードキルと草と木々のある林縁部の消失により、移動経路が分断するとともに生息環境が縮小。
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="635 994 1337 2063"> </div> <div data-bbox="619 129 903 965"> </div> <div data-bbox="911 533 946 943"> <p>【現況断面図 (A-A断面図)】</p> </div> <div data-bbox="1026 129 1358 965"> </div> </div>		
<p style="text-align: right;">【注目すべき生物の生息・生育環境 詳細平面図 1/5,000】</p> <p style="text-align: right;">【事業影響予測図】</p>		

[事業による影響予測結果 (地点②)]

確認された注目すべき生物	調査結果	事業により影響を受けるネットワーク
<p>植物：ジュンサイ ヨシ</p> <p>昆虫：オオトラフトンボ</p> <p>貝類：ドブガイ</p> <p>魚類：オオクチバス (監視すべき生物)</p>	<p>●ため池の水深は、流入土砂の堆積により最深部で約2 m程度。水質は弱酸性。</p> <p>●水面は広くジュンサイに覆われ、水深0.5m～2.0m程度の範囲に生育。</p> <p>●ため池の岸周辺一帯(水深0m～0.3m程度)にヨシが広く優占しており、多様な生物の生息環境として機能。オオクチバスを多数確認。ため池の下流側の水路にドブガイが多く生息。</p>	<p>●浚渫工によりジュンサイ、ヨシの地下茎が掘削されて消失する。また、浅場が消失し、施工後の回復も困難。</p> <p>●工事時期が冬期間の場合、落水により水路底が乾燥し、オオトラフトンボの幼虫が死滅。</p> <p>●施工中、ため池下流の水枯れによりドブガイが死滅。</p>



【注目すべき生物の生息・生育環境 詳細平面図 1/5,000】

【事業影響予測図 (A-A断面)】